



中部大学ESDエコマネーチーム

令和2年1月30日

「会社を守ろうwithコロナ」

①標準化教材②身の回りのリスクについて考えよう

昨今、日本では大規模震災、世界中で気候変動リスク、新型コロナウイルス等の社会リスクが大きくなり、リスクをきちんと理解し事前に備えることの重要性や感染予防を想定した生活様式の実践、「災害支援」や「応援消費」といったエシカル消費を通じた消費者の役割が注目されています。そこで、2020年は事業継続マネジメントシステム国際標準規格であるISO22301に着目し、SDGsの観点から地域、専門家との連携により自然災害や気候変動リスクだけでなく新型コロナウイルスなどに対応した教材「会社を守ろうwithコロナ」を開発しました。

①★教材の特徴★

多くの社会的リスクを踏まえ、災害、感染症に対してどのように取り組めばよいか考えることができます。企業の復旧力、対応力を構築するためのマネジメント手法であるBCMを深く理解・構築し、天災、人災、感染症のようなリスクを学び、認識・対処することで事業継続に必要な行動が取れます。さらにSDGsと関連させながら経営を行い、企業の利害関係者との連携強化・信頼性の向上が期待できます。すべての産業からなりたい職業を選び、様々なリスクに対応するために投資し、環境へ配慮をする企業づくりやサプライチェーンへの問題解決に取り組むゲームです。



①★教材の活用法★

企業:BCMを活用し、危機管理と適切な行動を身につけられる。気候変動・災害・感染症への適応、ニューノーマルな時代への対応、SDGの対応に関する経営戦略を学習できます。防災・感染症・SDGsの経営戦略を担う委員会活動、新人研修、BCMの内部監査研修の教材として活用できます。

消費者:経営者の立場からリスクを学ぶことで問題への対応力を身につけることができます。応援消費を検討する際の基準について学習できます。



②★身の回りのリスク★

それぞれのリスクについて考えてみよう！！

まず、気候変動に関してあなたができることは何だろうか？…「CO2の削減対策」**「気候変動リスク管理」**です。CO2の削減対策はCOOL CHOICE クールビズ、ウォームビズ、Smart Move、カーボンオフセット、カーボンフットプリントがあり、これらの取り組みに参加することで温暖化対策に寄与できるのです。気候変動リスク管理は気候変動影響による被害への回避・軽減のための備えをすることが大事です。

次に台風・洪水・土砂災害についてです。

気候変動に伴い超大型台風の接近リスクが高まっています。台風だけでなくこれらが起こった際の備えはできていますか？台風への備えにはマイ・タイムライン：住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）が有効です。自分自身がとる標準的な防災行動を時系列で整理し、自ら考え命を守る避難行動を行いましょう。



洪水の場合、**浸水が広がる前の段階に直ちに**

安全な場所に避難することが重要です。雨風が激しくなってからの屋外行動は非常に危険です。外に出るのが危険なときは、垂直避難をしましょう。



国土交通省「逃げキッド」

土砂災害を防ぐために身を守れるように備えることが重要です。

土砂災害のおそれのある地区は「**土砂災害警戒区域**」や「**土砂災害危険箇所**」とされています。都道府県や国土交通省のハザードマップでご自宅が該当地域かどうかを確認し、市町村が作成する土砂災害ハザードマップを利用して避難場所や避難経路を確認しましょう。



土砂災害に備えよう（前兆現象） | 福井県ホームページ (fukui.lg.jp)